千葉支店

VETERAN × ROOKIE

ベテラン×ルーキー対談！

50周年を機に、「100年続く企業」を願って始まったベテラン×ルーキー対談リレー。
今回は千葉支店・柏事業所から、入社14年目の神谷所長と、今年4月に入社した一石さんに話を聞きました。

10年勤務した三郷から、自宅から近い柏への異動。喜びより先にあったのは不安だったといいます。



神谷：「知らない環境で所長になる責任の重さを感じました。判断しなければならないことも多くて、何回も逃げ出したいと思いました。」

そんな言葉を聞いて、一石さんはすぐに返しました。



一石：「僕からしたら、ついていきたい人です。かっこいいです。」

神谷所長の第一印象は「絶対にいい人、絶対に優しい人」。実際に働いてみると、それ以上だったそうです。



一石：「本当に腰が低くて、尊敬できる人です。優しいだけじゃなくて、たまに出る熱い一言がうれしい。そこでスイッチが入ります。」

その関係性を象徴する出来事がありました。8月31日、施設での入浴サービス中、一石さんが片付けをしていると給水設備のトラブルが発生。水が止まらず、階全体が水浸しになるほどの事態となりました。



一石：「もう唖然としました。かなり落ち込みました。」

その日の夜、一石さんの携帯に神谷所長から電話がありました。



一石：「電話をもらった時は、本当に泣きそうになりました。もっと頑張ろう、この人についていこうと思いました。」

一方、神谷所長が長く仕事を続ける中で、嬉しさを感じる瞬間にも変化がありました。利用者から「神谷さんが来てくれてうれしい」と声をかけてもらえることは、今でも大きな励みです。そして今は、それ以上に、一石さんをはじめとする仲間が利用者から褒められることに喜びを感じるといいます。



神谷：「自分が褒められるのもうれしいですけど、職員が褒められると、それも本当にうれしいですね。」

13年間で、職場の雰囲気も大きく変わりました。神谷所長が入社した頃は、指導も今よりずっとハードだったそうです。



神谷：「道を間違えれば、助手席から烈火のごとく言われることもありました（笑）。当時は大変でしたけど、『この人をうならせてやろう』というのがモチベーションにもなりました。振り返れば、それが自分の成長につながった部分もあります。」

対して一石さんが感じたのは、「想像以上にみんな優しい」というギャップでした。時代も、教え方も変わる。けれど、変えてはいけないものもあります。神谷所長が最も大切にしているのは、「安全第一」。



神谷：「運転も入浴も、焦ると事故のリスクが上がります。だから焦らない。これは絶対に受け継いでいってほしいです。」

一石さんが大切にしているのは、「素直さ」。



一石：「先輩や上司の言葉をどんどん受け入れて、吸収していきたいです。自分もいつか教える立場になる。その時を見据えて成長したい。近くの人だけでなく、周りから信頼される人になることが今の目標です！」

そして神谷所長が、仕事を続けるうえで安全と同じくらい大切だと考えているのが「人間関係」です。



神谷：「人が集まれば、ぶつかることもあります。でも、一歩引いて相手の立場になって考える。会社の『3つの約束』にある『人の喜びを優先する』という言葉が、僕は本当に好きなんです。」

一石さんも言います。



一石：「やっぱり、楽しくないと続かないと思います。もちろん楽しくない日もあります。でも、やるなら楽しんでほしい。簡単な仕事ではないけれど、その分返ってくるものが大きい仕事です。高齢者だけではなく、関わる人すべてを大切にしようと思えるようになりました。」

13年間積み重ねてきた経験と、まだ半年だからこそのまっすぐな思い。「逃げたい」と思った日々を越えて立つ先輩の背中を、「ついていきたい」と後輩が追いかける。形は変わっても、大切なものは人から人へ受け継がれていく。柏事業所の二人の姿に、ASCareが次の50年へつないでいくものが見えました。



ルーキー社員 一石さん（入社半年）

大学まで本気でサッカーに打ち込み、高校・大学の7年間は寮生活。卒業後は塗料会社でルート営業を2年間経験。ASCareを知ったきっかけは、お母様が看護師の派遣として働いていたこと。「やってみたかった」という思いもあり、今年4月に入社した。

ベテラン社員 神谷所長（入社13年）

前職は自衛隊。4年間勤務した後、企業説明会で当時のアサヒサンクリーン（旧社名）を知る。お母様が福祉関係の仕事をしていたこともあり、介護の世界へ。入社後は三郷事業所で約10年勤務し、副所長を経験。11年目に柏事業所へ異動し、所長となる。